

関西中央高等学校 令和5年度 学校評価報告書

関西中央高等学校
学校評価委員会

1 本校の概要

(1)沿革

昭和39(1964)年4月に、桜井女子高等学校として現在の地(奈良県桜井市桜井502番地)に開校し、60年を迎えた。平成11(1999)年4月に、関西中央高等学校に校名変更を行い、特進コースを男女共学(平成15(2003)年全コースで共学)とした。開校以来、課程、コース等の変遷を経て、平成29(2017)年4月より、普通科特別進学コース・進学コースの2コースとなった。

(2)基本理念、基本方針

基本理念	建学の精神「徳をのばす、知をみがく、美をつくる」に基づく人格形成
基本方針	「学ぶ力」をのばし、「生きる力」をみがく

(3)スクールミッション・ポリシー

スクール・ミッション(本校の使命)
「学ぶ力をのばし、生きる力をみがく」教育を実現する

スクール・ポリシー(教育方針)
「考える力」「コミュニケーション力」を育てる。
「社会規範」を確かに身につける。
「思いやりの心」を身につけ育てる。
「個性」をのばし育てる。
「学力」をのばす。

(4)令和5年度の重点目標について

①学力向上の教育体制の整備

- (1)生徒の進路を保障する教育プログラムを継続・推進する。
- (2)教育プログラムを効果的に展開する教育体制を維持する。

②学ぶ力・生きる力を育む教育体制の整備

- (1)教育の特色や実績を効果的に保護者に伝える方法を提案する。
- (2)教育環境の効率的、効果的整備と運用を計画的に図る。

2 今年度の重点目標における取組計画、自己評価、改善方策(経過報告)

自己評価の目安 S:大幅達成 A:達成 B:未達成 C:大幅未達成

(1) 重点目標① 学力向上の教育体制の整備

取組計画	自己評価	取組計画・内容	評価指標
生徒の進路を保障する教育プログラムを継続・推進する。		・総合型選抜、指定校入試や公募制推薦入試などで受験する生徒が増えていることから、面接対策として自分の考えをまとめることや小論文入試対策として今年度から小論文対策講座や小論文テストを実施。 ・特進コース以外に進学コースの模試受験希望者が増えていることから、模試の回数を増やし学力の把握を行い、進路指導の資料として活用した。 ・生徒全員の進路保障を図るために、保護者の協力も必要ことから5月に保護者対象進路説明会を実施。生徒一人ひとりが自分の将来の生き方への関心を高めるため、6月に学校別進路説明会(生徒対象)を実施。 ・進路実現に必要な学力を育むため、特進コース、進学コース別に夏期講習を実施。さらに特進コースの7・8限には、外部業者による校内予備校や、本校教員による関中塾を実施。進学コースにおいても知正塾を実施し、学力の定着、向上をめざした。	・進路指導部と担任が連携しタイムリーな入試情報を提供することで質の高い進路指導を実現できた。進路指導や情報提供については、生徒・保護者から高い評価を得ることができた。 ・志望する分野を早く決めることができ、進路指導部や担任が例年よりも体制を整えたうえで、9月からの総合型選抜入試をはじめ公募制推薦入試や指定校入試、就職における面接対策などをサポートすることができた。
教育プログラムを効果的に展開する教育体制を維持する。		・基礎学力を定着させるため国語・英語の朝学テストを実施し、個々の生徒の学力定着状況を日常的に把握できる体制を構築。 ・教科会議を定期的開催し、生徒情報の共有やシラバスの進み具合を確認し状況に応じて対策を行った。夏期講習においても習熟度を共有し必要な分野を組み込むなど協力する体制を整えることができた。 ・低学力生徒や不登校生徒に対して個別指導を強化し、定期考査前には補習を行い、学習面でのサポートを教員一丸となって取り組んだ。	

(2) 重点目標② 学ぶ力・生きる力を育む教育体制の整備

取組計画	自己評価	取組計画・内容	評価指標
教育の特色や実績を効果的に保護者に伝える方法を提案する。		・スタディサプリの連絡機能を使い課題配信や連絡等学習サポート状況が保護者にも確認できる体制を整えた。 ・保護者進路説明会では本校の学習サポート体制をはじめ進路指導の実績や方針を伝える時間を取り保護者との情報共有を行った。 ・保護者懇談を定期的実施し教育・進路指導方針を伝える機会を増やし、学年通信や行事のHP掲載など定期的に情報提供を行った。	・イーラーニングのコンテンツは文字だけでなく、マルチメディア(画像・音声・動画)を併用することから、具体的・直感的な理解につながるが、管理者による学習状況の把握が必要になる。そのために担当教員が積極的に関与したことにより課題に対する定着を図ることができた。
教育環境の効率的、効果的整備と運用を計画的に図る。		・スタディサプリは担任が事前に内容を確認。授業・演習・課題と連動させながら効率的に活用し、学習の習慣化や基礎力の定着を図ることができた。 ・教室においてもタブレットやノートPCを用意しマルチデバイスで学習する環境を整えた。Wi-Fi環境も整えることで学習や進路情報の提供を速やかに行うことができた。	・生徒や保護者アンケートなど迅速にフィードバックを行い、学年の課題として共有を行うことができた。 ・スクール・ポリシーを新たに設定したことにより教育方針に沿った行事や学習・進路指導を行うことができた。

3 アンケートの実施状況について

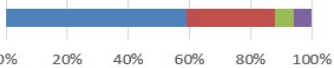
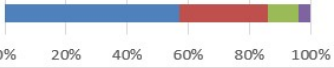
学校教育法及び同施行規則に基づき、本校において学校評価を実施するため令和5年7月に本校の生徒及び保護者にアンケートを実施し結果を集約した。今回のアンケート結果は本校の現状及び課題を再認識する契機として位置づけ、本校の教育内容と検証しさらなる改善に役立てていく。

(1) 学校生活・教員との連携について

行動制限が解除され学校生活がもとに戻りつつある中で、教育の在り方について再構築を行った。募集停止となり1学年下の生徒がいない中で、学校生活を楽しむ、充実させるために教職員が一丸となって取り組んだ。その中でも生徒・保護者からは学校生活に対する充実度は高く、教員への信頼度も向上していることから、教育の質を落とさず本校で過ごしたことを誇りに思えるよう最後までサポートを行う。

3年生(前年比較)

○生徒アンケート

		A	B	C	D	2023年度 A+B	昨年度 A+B
		59%	29%	6%	6%	88%	85%
学校生活	Ⅱ a 学校生活は楽しく充実していますか。						
		A	B	C	D	2023年度 A+B	昨年度 A+B
		57%	29%	10%	4%	86%	86%
学校生活	Ⅳ d 困ったことがあった時に相談できる先生がいますか。						

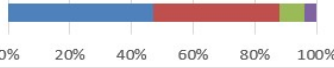
A…当てはまる B…やや当てはまる C…どちらかといえば当てはまらない D…当てはまらない

(2) 学習体制・学習環境について

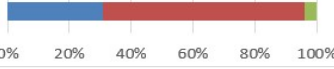
社会構造や価値観が複雑化する現代社会において必要なことは、生徒が情報を検索し活用する「情報活用能力」である。普段の授業や課題学習で積極的にマルチデバイスを活用し、情報収集に関する講演会を実施するなど、生徒の情報活用能力の育成に取り組んできた。資格取得を希望する生徒へのサポートや補習などに随時対応し、生徒の学習したい気持ちに応えるよう務めた。これらの学習体制と環境を最後まで維持し生徒を支えていく。

3年生(前年比較)

○生徒アンケート

		A	B	C	D	2023年度 A+B	昨年度 A+B
		47%	41%	8%	4%	88%	67%
学習環境	Ⅳ c 本校の施設・設備は、学習活動を促進するために十分整備されていると思いますか。						

○保護者アンケート

		A	B	C	D	2023年度 A+B	昨年度 A+B
		31%	65%	4%	0%	96%	79%
学習環境	本校が提供している教育内容に満足している。						

A…当てはまる B…やや当てはまる C…どちらかといえば当てはまらない D…当てはまらない

(3)進路指導

進路指導部による最新の進路情報を活用しながら担任は一人ひとりに合った進路指導を実施。進路指導部と担任が連携することで、生徒への進路指導を充実させることができた。「目的を持った進路選択ができる・生き方を考える」を目標とし、人権部と連携しながら講演会を通して生き方を考える力を育成することができた。

3年生(前年比較)

○生徒アンケート

		A	B	C	D	2023年度 A+B	昨年度 A+B
進路指導	Ⅵa自分の進路を担当が把握していると思いますか。	76%	20%	4%	0%	96%	85%
進路指導	Ⅵb適正・希望に応じた進路指導や相談が、担任からきめ細かく行われていると思いますか。	61%	33%	6%	0%	94%	89%

○保護者アンケート

		A	B	C	D	2023年度 A+B	昨年度 A+B
進路指導	Ⅴa 進路を考えるために必要な情報は、学校から適切に提供されている。	43%	53%	4%	0%	96%	88%
進路指導	Ⅴb 適正・希望に応じた進路指導や相談が、担任からきめ細かく行われている。	46%	48%	6%	0%	94%	78%

A…当てはまる B…やや当てはまる C…どちらかといえば当てはまらない D…当てはまらない

(4)生活指導(安全や健康)

本校の安全計画に基づき防災意識を高める訓練・講演を実施した。薬物に対する講演においても健康面からアプローチを行い、興味本位で使用しないよう意識付けを行った。感染症対策においても学校の方針を決め、保護者へ伝えることにより学校と家庭での連携を行い、感染拡大を防止することができ健康管理について意識付けを行うことができた。

3年生(前年比較)

○保護者アンケート

		A	B	C	D	2023年度 A+B	昨年度 A+B
生活指導	安全や健康に対する学校の対応は適切である。	56%	42%	2%	0%	98%	86%

4 学校関係者評価委員会からの評価結果について

令和5年12月6日に学校関係者評価委員会が開催され、下記の審議等がされた。

冒頭、資料に基づき、文部科学省のガイドラインに沿った「学校評価」について説明がされ、本校の学校評価委員会において決定された「学校評価」の進め方について説明がなされた。その「学校評価」に「学校関係者評価委員会」が関与する趣旨、関与方法について説明がされ、出席委員全員で共有された。

西川校長より、資料4に基づき、現在の本校の取組に関し、具体的に説明された。その後、事務局より、今年度の重点目標とその目標を設定した方法等が説明され、項目ごとの取組計画、取組状況、自己評価・達成状況及び、今後の改善方法や保護者・生徒アンケートの集計結果が説明された。その上で評価や対応方法に関し、意見交換が行なわれた。

- ・昨年に比べ、行事や授業参観が増加し生徒への配慮を感じることができたことは良かった。
- ・生徒、保護者アンケートが共有できたことは良かったので、評価が低かった生徒へのサポートをして欲しい。
- ・記憶に残る学校生活を過ごすために教職員の協力体制に感謝している。
- ・生徒全員に目が行き届いていると感じる。部活動においても存続の危機があったが合同チームで試合に出れたことに感謝している。
- ・次年度以降、関西中央高等学校の運用について状況が分かれば、HP等で案内して欲しい。

本校における対応について説明を行い、以上の意見に対して内容をまとめて「学校関係者評価」とすることが承認された。

学校関係者評価委員会委員名簿

幸田 恵里 育友会会長
横山 康代 育友会前会長
松田 卓也 蘭友会(同窓会)会長
小西 宗日出 桜井まちづくり株式会社代表取締役会長
前平 泰志 畿央大学教育学部学部長 現代教育学科 教授
植村 豊 学校法人冬木学園 法人事務局長
西川 隆彰 関西中央高等学校 校長

5 校長の意見書

本校は令和5年度在籍する三年生が卒業し、令和6年度からは休校となる。

今年度は新型コロナウイルスが5類に移行され、概ね日常生活は通常に戻った。我々教職員は在籍する生徒に最大限の教育をするという姿勢で臨んできた。行事に関しては、一年次、二年次と年度を追って取り組み、最終年度の三年次となる今年度は、学園本部や育友会の更なるバックアップがあり、従来にも増して充実した行事を催すことができた。今年度を振り返ると、4月の校外学習はUSJで楽しい一時を過ごした。7月の「命を大切に人権教育講演会」では、僧侶でシンガーソングライターの三浦明利さんにギター演奏を交えて、心に響く弾き語りをしていただいた。生徒が楽しみにしていた文化祭は9月に、保護者はもとより卒業生や近隣地域の方々への参加を得て大いに盛り上がった。

また、ユネスコ・アジア文化センター主催による世界遺産教室は初めての取組で、フリーアナウンサーで世界遺産研究家の久保美智代さんをお招きして、文化遺産、自然遺産、複合遺産などを紹介していただいた。時おりしもロシアによるウクライナ侵襲で、かけがえのない文化財や自然が壊され、何より大切な人の命が失われていくことに心痛む思いである。体育祭は、とりわけ良き思い出づくりとなるような行事にと、今回初めて、琵琶湖でのカヤックや仲間と協力してミッションをクリアするチームビルディングを体験した。水難事故のなきように、現地のスタッフや教職員が事前準備を用意周到に行い、無事に終えられたことを感謝している。

10月には育友会の企画によるダンスイベントが催され、ヒップホップなどのダンサーの指導の下、生徒たちはグループに分かれてダンスを楽しみながら表現することができた。普段気付けなかった自分の能力を発見するきっかけになったのではないかと思う。

また、生徒がSNS利用に関わって被害を受けないよう県警察の方による防犯講演会を12月に催した。少年を「使い捨て」にする「闇バイト」の現実を学ぶことで、生徒が卒業後、「闇バイト」という犯罪に加担することのないように様々な事象が提示され、生徒にとって、まさに時宜を得た内容であった。

学力をのばすために、正規の授業に加え、朝のHR前の「朝学」や放課後の取組として特進コースは「関中塾」を自教室で、進学コースは「知正の杜」や「知正塾」と称した学習支援プログラムを図書室で行った。一昨年度からは特進コースの「関中塾」の中に外部指導者による「校内予備校」を設けた。また、進学コース生を対象にした「総合的な探究の時間」では、1年次に導入した次世代型教材を引き続き展開し、卒業時まで継続的に取り組めた。受験対策の先取りとして、二年生の3月から開始した小論文対策講座は、4月と6月に小論文対策の講演会を行い、その後、小論文テストを実施し、添削してフィードバックするという形で全生徒を対象として行った。5月には学校別の進路ガイダンスを、6月には保護者対象の進路説明会を実施した。

また、スタディサプリを導入し生徒の学力向上を目指した。個々の生徒のデータを分析し、そのデータを生かした取組を行い進路指導に生かした。

生徒会が中心となって「思いやりの心・マナーアップ運動」を展開し、生徒たちが作った標語を渡り廊下に掲示した。登下校時には校門一礼を行い、「元気な挨拶日本一」を励行した。

また、美化委員が中心となってプランターに花を植える「花いっぱい運動」を展開した。さらには、「建学の精神の唱和」を毎週月曜日の朝のHRで行った。「輝く道を切り開こう、己の夢をつかみとれ」というかつての生徒会が作製した標語の垂れ幕を今も校舎に掲げ、生徒会役員は毎朝、国旗と校旗を掲揚した。若者らしくはつつとしたさわやかな姿が、関西中央高校生としての誇りを生み出し、魅力となった。なお、桜井市主催の「青少年の主張」に3年生の生徒が、授業「表現探究」で学んだことを発表した。特攻隊となって若くして命を落とした青年の母に当てた手紙が朗読され、多くの聴衆は聴き入るとともに、その内容に心打たれた。

今年度卒業した最後の卒業生は中学時代から続くコロナ禍の中、本校に入学した。その年の5月、次年度からの生徒募集停止という報に接し、心が揺れた3年間であったと思う。しかし、これらのことを乗り越え、彼らは一回りも二回りも大きくなって卒業した。青春時代に味わったこれらの体験は、長い人生を歩む中で、強みとなり、財産となり、大きな柱となってほしいと願っている。生徒は冬木学園と縁があって本校に入学し学んできた。次世代となる彼らが、「徳をのばす、知をみがく、美をつくる」の建学の精神を、周りや世界にまですつなぎ、ひろめ、のばしていつてくれることを期待する。